

Tackle Guide

竿はやはりイカメタル専用がベスト。リールは小型両軸タイプで、暗い船上でラインの色変わりが確認しにくい場合に備えて、水深計付きのものが望ましい。

があるため、浅場限定の釣りになることから、駿河湾は希少なフィールドとなる。

この日も15人全員がイカメタルで挑んでいる。ナマリツノのサイズは8〜10号が標準で、潮が速い場合に備えて15号まで用意しておくこと。

最初の乗りは18時半、船尾で上がったのは小型のタコ。その後、日が傾き、集魚灯が点灯した19時過ぎ、右舷トモ3番で本命第1号が顔を出す。サイズは胴長15センチほど。スツテのカラーが合ったのか、はたまた誘いがマッチしていたのか、3分後に同じ人

が2杯目を上げる。

ただし、サイズは胴長10センチほどの小型。このイカを見て船長、

「イカが小さいので、乗りが取れないのかもしれないね」とつぶやく。

この釣りはイカはまだスレていない、日没前後のスタート直後にバタバタと乗ることが多いのだが、今日はいささか状況が異なるようだ。

また、スタート直後はイカが底付近に群れているため、直結もしくは直プラ仕掛けによるゼロテン釣法が威力を発揮することも多いから、余裕のある人は使い分けてみるのも面白い。

それでも、迎りが完全に闇に包まれる2時ごろから次第にイカの活性が上がり、船中あちこちで竿が曲がるようになる。

今シーズンも絶不調に終わ



▲7月後半はサイズアップしたマルイカの乗りを楽しめるはず
▼アンカーを下ろし、船上灯でイカを寄せたカカリ釣りで狙う

7月2日、駿河湾沼津内港の秀丸へ。狙いは夏のシーズンを迎えたマルイカ。

一般にマルイカは日中のターゲットと認識されているが、駿河湾では夜釣りで狙う。

この日は週末ということもあり、定員MAXの15人が集結。16時45分、小池秀幸船長の操船で岸壁を離れる。

折しもauの通信障害の真つただ中、予約客と一切連絡が取れない状況下で、大きなトラブルもなく無事に出船できたのは幸運だろう。

ちなみに、秀丸では船着き場と駐車場が離れているため、指定の時間に駐車場に集合し、そこから宿のハイエースで荷

物と一緒に送迎してくれるシステムになっている。

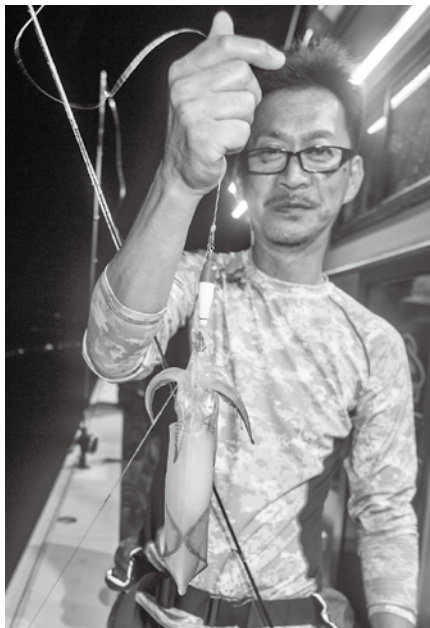
このため、荷物はコンパクトにまとめ、竿には仕掛けをセツトしないよう注意が必要。もちろん、くれぐれも車に忘れ物などないよう。

南西風のため、右舷に波をかぶっての航行となったが、大瀬崎の北側のポイントには風裏となるので、ベタナギ状態。ここまでの航程は15分ほど。

17時、水深約30メートルにアンカーを打ち、船を固定したところで準備完了。

昼間、マルイカの群れは深場において、夕暮れとともに浅場へと移動してくる。

したがって、17時に釣り開



▲身が軟らかくて甘みが強いマルイカは食味も魅力

つたムギイカも3割ほど交じっている。

専用竿は軟らかめを

やがて、集魚灯の光に誘われ、小魚が表層付近に集まるようになると、イカも浮上してくるから、底付近に固執したままでは釣果はのびない。

数日前はタナ15メートルで30杯釣った人もいるそうだから、船長のアナウンスに合わせタナを広く探る必要がある。

また、マルイカ釣りでは極小のアタリを確実にとらえ、素早く合わせを入れるのが最大のポイント。これは、イカのサイズが小さいときや活性が低いときなど顕著に表れる。

そのためには、やはり鋭敏な穂先を持つ専用竿の使用が多

望ましい。

ただし、イカメタルの本場である北陸エリアでは、イカのサイズが大きく、水深も深めであるケースがほとんど。

このため、イカメタル専用竿ならなんでも良いというわけではない。北陸パージョンでは沼津では強すぎる傾向があるため、ラインナップの中から、もっともライトなアイテムを選ぶようにしたい。

さて、2時ごろのピークの後は徐々に尻すぼみとなり、ポツンポツンとアタリがくる状況が11時過ぎの沖揚がりまで続いた。

このところトップの平均が20杯前後で安定していたが、今日は9杯が竿頭と急降下。原因としては、週末で船が多



このあたりの事情はタチウオ釣りにも通じる。

本番前ののんびりタイムを利用して、しばしまどろむもよし、早めの夕食をとるのもいい。また、この釣りに不慣れな人は船長に釣り方をレクチャーしてもらおうのもありだ。

夏場はイカメタル

沼津エリアのマルイカは冬と夏の2シーズンある。冬場は低水温とイカのサイズが小

知得! Tips and Tricks

沼津イカメタル仕様「ヌマリグ」

一般的なイカメタル仕掛けは、メタルスツテの1メートルほど上から、10〜15センチの枝スを介してフランコ式にウキスツテを結ぶ。しかし、これでは微妙なアタリが取りにくい。枝スが絡みやすいといった弱点がある。それを克服したのが船長考案のその名もヌマリグ。ウキスツテを直プラ式にすることで、感覚が増し、オマツリも防げるというスグレモノ。釣具店のイシグロで購入できるほか、自作して試してみるのもいいだろう。

▶「ヌマリグ」は2セット入り

船宿information

駿河湾沼津内港

秀丸

☎080-1595-1651 (詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=夜マルイカ乗合1人1万円(氷付き)

▶備考=集合時間は電話確認。駐車場あり

小池 秀幸船長

く、イカの群れが分散してしまつたこと、レンタルタックルのお客さんが多く、上級者レベルの人がいなくなつたことが考えられる。

いずれにせよ、シーズンは8月いっぱい(年によっては9月まで)続く。日中の釣りでは楽しめない、イカメタルによるマルイカ釣りにぜひ挑戦してほしい。

▲時合がくると宙層で入れ乗りになることも

駿河湾沼津内港発 ↓ 大瀬崎沖

イカメタルでライトに楽しむ

沼津名物・夜釣りのマルイカ

フィッシングライター 訓覇啓雄 Hiroo Kuribe